

2022年度 入学試験問題

国語 C

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は50分間です。
3. 問題は□〜四までです。
4. 解答はすべて解答用紙に書きなさい。
5. 解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
「させていただく」

(中略) この二十年あまりで一氣に、かつ全国的に市民権を得た謙讓表現です。自分の行為について、「する」「行く」「言う」などと言いつ切るのがはばかられるような場合、以前は「いたす」「まいる」「申す」という謙讓語を使えば、それでじゅうぶんでした。それが近年では、「させていただく」「行かせていただく」「言わせていただく」と、一步も二歩もへりくだった言い方をするのが、ごく当たり前になってきました。ときにはこれを謙讓の動詞にくっつけて「いたさせていただく」「まいらせていただく」のように、さらにコテコテと念入りに謙讓なさる人もいます。

① この言い回しは、関西の商人ことばから発展してきたといわれています。ですから、これに抵抗を感じるかどうかは、その人の母方言(幼児期に自然に獲得した方言)が東西どちら寄りかにもよるようですが、することなすこと、ことごとくに「させていただく」を使うのは、やはり注1いささか耳に障ります。分解すれば、この表現は使役動詞の連用形(日本語教育では「テ形」と呼んでいます)に、注2前項で取り上げた謙讓の動詞「いただく」をくっつけたものです。なぜここで使役などという要素が出てくるのか。それは、「私が(勝手に、自由に)スル」のではなく「あなたが(許可して)私にサセル」ということなのです。そして、そういうありがたい許可を「いただく」のが、②「させていただく」という表現の本質です。

ですから、注3繁忙期で注4同僚がヒイヒイ言っているときには、真正面から「休みたいんですけど」と言うより、「休ませていただきたいんですけど」と言ったほうが注5有休は取りやすいでしょう。あるいは、猫さまご愛用のタオルケット、ご愛用の度が過ぎてもういい加減に洗わなくちゃ、きょうを逃すとまた雨続きだ、という局面において、「あのおう、そ

ろそろ洗わせていただけませんか？」と聞くのも、(相手の猫が日本語を解するかどうかは別として)まったく適切な日本語であります。職場の同僚、あるいは注6いっかなタオルケットから降りようとしないう猫、そんな相手に許認可を求めめる必要があるからです。

でも、「初めて出場させていたでいて、ドキドキさせていただきました」は、どうでしょう。これ、その分野では注7登竜門といわれている狭き門を突破してコンテストに出場した歌い手さんが語ったことばです。あのラジオ番組で耳にしました。A そのコンテストは、出場したいと駄々をこねれば出られるというものではないわけでしょう？ あなたがその実力で勝ち取った出場権のだし、ドキドキという生理現象に至っては、いやもう、誰の許認可も必要ではありませんまい？

お金を出して買った印刷物を読み捨てるというのがどうも性分に合いません(根がケチなんですな)、週刊誌を買って読むという習慣はないのですけれども、歯医者さんの待合室などで週刊誌をパラパラめくっている、ほんとうにもうこの手の、B はずの「させていただく」がずらりと並んでいます。どうやら実際にはクビを切られたというほうがふさわしい状況において、「卒業させていただくことになりました」と引退を発表するアイドル。「二年ほど前からおつきあいさせていただいてまいりました」と、お互いをえらく尊敬し合っているらしい芸能人カプル。はたまた、「現在取り調べに応じさせていたでいておりますので……」と、記者の質問に対して回答を拒否する芸能事務所の代表。最後の例などは、むしろ応じるように注8令状をちらつかされたりしているんじゃないですか？

でも、③「こうまで「させていただく」が注9蔓延してきたのには、もつともな理由があります。それは、便利だから、です。

自分の行為をへりくだって述べるのが謙讓表現なわけですが、じつは「へりくだる」にも二種類あるのです。その行為に関連してへりくだるべき相手がいる場合と、とくにそのような相手がいない場合、です。二〇〇七年に、文化庁の文化審議会というところが新たな「敬語の指針」を発表しました。それまでひとくくりにしていた謙讓語を二つに分け、後者の、へりくだる相手がいない場合を「丁重語」と名づけました。この丁重語の代わりとして、「させていただく」は便利に使えるのです。

どういふことかと言いますと、たとえば、「行く」に当たる謙讓の動詞として、「伺う」と「まいる」があります。「伺う」は、行き先に向やまうべき相手がいて、その人に対して自分の行為をへりくだって述べる表現です。正真正銘の謙讓語です。一方「まいる」には、その行為に直接かかわってへりくだるべき相手はいません。単に目の前の話し相手に対して、私は私の行為を丁寧に表示しようとしていますよ、というメッセージを発しているだけの「丁重語」です。たとえば、行き先が「恩師のお宅」である場合、「伺う」でも「まいる」でも、大した違いは感じられないかもしれませんが、「お手洗い」だったら、どうでしょう。「さきほどお手洗いにまいりましたら、ひどく込んでおりました」には何の違和感もないでしょうが、「さきほどお手洗いに伺いましたら……」はどうですか？ 変ですよ。トイレに何か尊敬すべき神さまでも注10鎮座ましましていますようです。

C、自分の行為をへりくだって丁寧に表現する方法として、じつは二種類あるわけですが、右に述べた「伺う」と「まいる」の違いも、言われるまでは気づかなかった、という方は多いのではないのでしょうか。この違いには気づきにくいというのに、別々の表現を覚えなければならぬという記憶の負担もあります。その点、「させていただく」は、とりあえ

ず自分の行為全般に(使おうと思えば)使えてしまうのです。とっさに「伺う」が出てこなくても、「まいる」が思い浮かばなくても、はたまたどっちを使うか迷ったら、「行く」の形を変えて「行かせていただく」と言えばOKです。行き先が恩師のお宅だろうが、居酒屋のトイレだろうが、使えます。便利なのです。それで、相手がいてもいなくてもかまうもんか、とにかく自分の行為には全部使つとけ、ということになったのではなにかと思えます。

D といえ **D** ですが、しかし、まあ、卒業させていただくアイドルや、おつきあいさせていただく芸能人カプルのような例は、よしよし、とにかく何が何でも丁寧に言いたいんだな、許可なんか要らないから自由にやってくれたまえ、と注11鷹揚な気分で見過ごすことができます。見過ごせないのは、左の例であります。

一国の首相がいつ誰と会ったかというのは、少なくとも公務中については、たいせつな公的記録として永久保存すべきだろうと思うのですが、「来訪者の面会記録は都度破棄させていただくことになっております」って、えっ？ 国民として私はそんなことを許可した覚えはありませんぞ！と言いたい。というか、国民が何も言わなくても、優秀な官僚のみなさんが、大事な記録はきっちりいつまでも保存してくださいっているものと、無邪気に信じておりました。そして、「県民のみなさまのお気持ちに寄り添い、引き続き、丁寧な説明をさせていただきます」とおっしゃる方、あのお方には、わかりやすく簡単明瞭な説明をぜひぜひお願いしたいと思っております。「引き続き」じゃなくて「今度こそ」ですよ、とツツコミたい気持ちを抑えつつ、とにかく、お願いします。ただし、「寄り添わせていただきたい」と言われたら、④んー、そこは全力でご遠慮申し上げさせていたただきたいかな。

(一部内容を省略しました)

【清水由美『すばらしき日本語』】

注1 いささか…少し。

注2 前項で取り上げた…筆者は、本文より前の部分で謙譲の動詞について述べている。

注3 繁忙期…用事が多くていそがしい時期。

注4 同僚…同じ職場で働き、同じ地位である人。

注5 有休…「有給休暇」の略称で、給料が支払われる休暇。

注6 いつかな…どのようなことをしても。

注7 登竜門…そこを通りぬければ出世ができる関門。

注8 令状…ここでは逮捕状のこと。

注9 蔓延…とめどもなく広がること。

注10 鎮座ましまして…その場所にどっしりとどまっていたらっしゃる。

注11 鷹揚…ゆったりと落ち着いていること。

問一 A・Cに当てはまる言葉を、次のア～エからそれぞれ選

びなさい。

- | | | | | |
|---|--------|--------|--------|--------|
| A | ア だから | イ あるいは | ウ しかし | エ ところで |
| C | ア それとも | イ さらに | ウ そのため | エ つまり |

問二 ——線①「この言い回し」とありますが、そのことについての

説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア この表現は、最近二十年くらいの間に日本中で広く知られて、多くの人が使うようになった。

イ この表現は、関西の商人ことばに由来し、彼らが全国に進出するにつれて広く使われるようになった。

ウ この表現は、以前よりも他人にへりくだるようになった日本人が好んで使うようになった。

エ この表現は、謙譲の微妙な意味合いを表す言葉として、二十年あまりの間に日本全国に広まった。

問三 ——線②『させていただく』という表現の本質とありますが、

その説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 謙譲の動詞に「いただく」という動詞を加えることで、相手をやまう気持ちを伝わりやすくすること。

イ 謙譲語に使役の動詞を加えることで、自分の行為に対して相手の許可を求める意味を添えるということ。

ウ 「させて」と「いただく」を使うことで、自分の行為のすべてに相手の許可が必要であることを示すということ。

エ 使役の動詞を加えることで、相手が「させた」行為であるかのように見せかけて責任を逃れるということ。

問四 Bに当てはまる言葉を、本文中のこの後の部分から十字以内でぬき出しなさい。

問五 —— 線③「こうまで『させていただく』が蔓延してきたのには、

もっともな理由があります。それは、便利だから、です」とありま
すが、「させていただく」という表現はなぜ「便利」だと筆者は述
べていますか。その理由を四十字以内で説明しなさい。

問六 二カ所ある D に共通して当てはまる言葉を、次のア～エから
選びなさい。

ア 手数 イ 手間 ウ 手落ち エ 手抜き

問七 —— 線④「んー、そこは全力でご遠慮申し上げさせていただき
たいかな」とありますが、この部分の表現の説明として適当でない
ものを、次のア～エから選びなさい。

ア 話し言葉を使用することによってユーモアのある雰囲気を作り、
厳しい指摘の語調をやわらげている。

イ おかしな言葉の使い方に対して皮肉を込めるために、より多くの
へりくだる言葉を用いている。

ウ うやまう相手がいるため「申し上げる」という謙譲語を使っただ
えで、丁寧に述べようと丁寧語を加えている。

エ あえて不適當な謙譲語を用いることで、「寄り添わせていただき
たい」という言葉への不快感を示している。

問八 本文の内容の説明として最も適当なものを、次のア～エから選
びなさい。

ア 同じ用法の謙譲の動詞である「伺う」や「まいる」に替わって、
「させていただく」が使われるようになった。

イ 状況を考えず、むやみに「させていただく」という表現を用いる
のは、聞いたり読んだりして違和感を覚える。

ウ 政治家が不適切な行為をごまかすために、わざと「させていた
く」を多用することは、批判されるべきである。

エ 二〇〇七年に文化審議会が発表した「敬語の指針」によって、「さ
せていただく」は正しい用法として認められた。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

高校生の野崎とわは、新聞部の美織の依頼で数学オリンピックに出場する数学研究部の取材を手伝うことになり、数学研究部の部員である在、響、章、顧問の朝先生とともに、数学者の関口教授のセミナーに参加した。

「今でもどこかで研究を続けている友が、ときどきヒントをくれるんですよ」
そう言った関口教授の目も、冬のひだまりのように静かで温かかった。

① 聞き方によれば、奇妙で荒唐無稽な関口教授の話。けれども聞いているうちにすつかり引き込まれてしまった。

注₂ 神さまの正体を明らかにするために関口教授が始めたのは、その親友との思い出話だった。教授は大学時代、数学の勉強のためイギリスに留学し、そこで親友となる人と出会った。

「彼はインド人でした」

日本から海外に留学する学生は増えてきてはいたが、当時のインドからはよほど優秀な学生しか資格を得ることができず、その学生も大変優秀だったという。

「私は英語がとても苦手です。だから現地ではあまり口を開きませんでしたが彼もでした。彼はもつとひどくて、ヒンディー語しか知りませんでした。けれども私たちは仲よくなりました。どうしてだと思いますか？」

「インスピレーションとか？」

「超能力とか？」

それまで科学では解明できないことを話題にしていたせいで、美織と、とわは口走ったが、冷静な声がそれを制した。

「数式ですね」

在だ。

「そうです。数式は万国共通です。仮に言葉が通じなくても、数式を介せば会話ができるのです」

「音楽みたいですね。音楽は国境を越えます」

「相撲も見ればわかるっす」

「絵画もですよ」

響と章と美織が言うのに、関口教授は微笑んでうなずいた。

「そうですね。そんな感じですよ。私たちは同じ数式を見て美しいと感じ、感動を分かちあうことができましたから、言葉なんかいらなかったのです」

「数式が美しい」

とわは、ついつぶやいた。それもまた、かねてからの疑問のひとつだったのだ。音楽や絵画はともかく、数式を美しいと感じる感覚が理解できなかった。だからこそ、関口教授の説明はわかりやすかった。(中略)

「私たちは美しいと感じる数式が同じだった。同じ数式に出合ったとき、心が晴れ晴れとするような爽快感と満たされるような充実感を持った。ただの物質移動の数式に同じ風を感じ、回転する図形に宇宙の始まりを見た。お互いのこれまでの人生を理解するのに、これ以上の情報はいりませんでした。私たちはすぐに親友となりました」

部員たちは、真剣な面持ちで話に聞き入っていた。とわもまた、素晴らしい物語の一文をかみしめたような気持ちになっていた。

「彼との日々は本当に豊かなものでした。もとよりインドは優秀な数学者を数多く生み出した国です。彼も私がそれまで出合ったことのない新しい発想を持っていた。大変刺激的でした。私たちは研究を重ね、共同で論文を書きました。そのうちにちよつと不思議な体験もしました」

「不思議な？」

がぜん身を乗り出す美織と、とわに、関口教授は、淡々とした口調で

話してくれた。

「研究をしているうちに、言葉がいらなくなっていたのです。もともと最初から言葉は不自由だったので、数式でつながっていたのですが、途中からそれすらいらなくなりました。まるでテレパシーみたいでした。相手の頭の中の数字が突然飛び込んでくる感じですよ。『おお、今、私もそれを考えていたんだ』とそれぞれの母国語で叫びながら、何度肩を叩きあったことでしょうか」

「すごい」

「ブラボーだ」

「やばいっす」

「いつか二人で、世界中の数学者を驚かせるような論文を書こうと話していました。ところが……」

そこまで話して関口教授はふっと黙った。これまで力強く輝いていた目が、一瞬、洞穴みたくに空虚になった。

「それは叶いませんでした。彼の体は病魔にむしばまれていたのです。気づいたときには、すでに手の施しようがありませんでした。私はずっと一緒にいたのに、彼の体の不調にはまるで気がつきませんでした」

淡々と語る関口教授の視線はよるべなく、どこか違う場所をさまよっているようだった。一緒にいたイギリスかもしれないし、親友の故郷のインドかもしれない。あるいは、数学の世界かもしれない。とにかくどこか遠いところにあるようで、^③とわは心もとない気持ちになったが、教授はしっかりと顔をあげた。

「しかし私は彼が今も研究をしていると思うのですよ」
温度が戻った声で言った。

「天国で、ですか？」

尋ねた在に、うなずくと、

「そうですね。場所の名称はわかりませんが、どこかの研究所です。彼はそこに拠点を移して、今も研究をしているのを、確かに感じるので。そしてときどき、それが私にも伝わってくる。一緒に研究をしていたときのように」

「^④先生にとつての神さまの手帳なんですよ」

「そうですね。ずっと考えていた問題がひらめいたとき、私は向こうの研究所の彼もひらめいたのだと思います」

あつ。

関口教授の解釈に、とわは思わず叫びそうになってこらえた。

もしかして。

物語も同じかもしれないと思った。「物語がおりにくる」という表現を聞くことがあるが、その仕組みを見たような気になった。小説家たちは、この世からいなくなっても、どこかへ書齋を移してずっと書き続けている。それを頑張っている人のところにとときどき落としてくれるのではないだろうか。

と、そのとき、

「わー、それやばいじゃん」

突然、在が叫んだ。

「そんなら偉大な数学者たちは今でもどこかで研究してるかもしれないですね。フェルマー、ニュートン、ラマヌジャン、関孝和、岡潔、あと偉大なる数学者、ガウス。そんな人たちの研究が飛んできたら、すっげえことになるじゃん。おお、ガウス、^{注3}プリーズ」

「わあっ」

^⑤在とまるで同じことを考えていたとわは、今度こそ叫んでしまったが、

朝先生は諫めるような顔をした。

「そんな簡単なものじゃないわよ。第一そんな人をプリーズしちゃったら、大変な人生になるわよ」

けれども高校生たちは口ぐちに叫んだ。

「注⁴ ショパンプリーズ」

「注⁵ 双葉山プリーズ」

「注⁶ ピカソプリーズ」

研究室でのことを思い出しながら、とわは、うまく進まない注⁷ ナジャカンの話を読みかえした。

「注⁸ グリム、プリーズ」

無駄なことだとは思いつつ、小声でつぶやいてみた。

関口教授のセミナーを境に、数学研究部の雰囲気はがらりと変わった。追い込みモードになったのだ。これまでのように、過去問が配られて、それを解き、誰かが解説をし、それについてさらにほかの解き方を提示する。やっていることは変わらないが、その密度がぐっと濃くなった。緩んだ時間は一切なくて、三人の集中力が、一直線に数学の問題にのみ向かっていることがわかった。

その内容のほとんどに、とわはついてはいけないうが、新しい解き方が提示されるたび、鮮やかな風景を見るような気持ちになった。

以前見た、立方体の切断部分のようだった。角度を変えて切るたびに、形の違う図形が現れたときには、ただ目をみはったが、あの図形の出現にも数式の確かな裏付けがある。それと同じで、目の前で導き出される解答は、いずれもなんらかの数の理にのっとっている。わからないな

がらに、確固たる強さを感じてしまう。

けれども、というべきか、そして、というべきか、そんなゆるぎないほどに正しいやり方が、いくらでも存在するのだ。たったひとつの正解に行きつくためには、どんな考え方を用いるのも自由だ。自分が選んだやり方で到達するまで、正解は動かさずにじっと待っている。千年でも、二千年でも。

⑥ 数学の、圧倒されるような包容力と普遍。

空気がぐっと引きしまっていた。いや、⑦ 引きしまっているのは、とわの体のほうだった。体の隅々の神経が、巨大な正しさを前にきゅっと静まりかえっていた。

とわは三人を、改めて眺めてみる。三人三様。

響はピアノストのように美しく。正確な音色を確かめながらリズムを作り、鍵盤の叩き方に強弱をつけて表現するように、数字も操っている。章はアスリートらしくがむしゃらに。とにかく動きながら、しかしときには静止して次の動きを探りながら。数字と体当たりで格闘している。そして在。在は研究者だ。あらゆる角度から細かく観察し、吟味しながら、予測と検証を繰り返して、粘り強く数の把握を試みる。それぞれのやり方で問題に取り組んできた三人は、それらをいっそうパワーアップさせてぶつけあっていた。

すごいな。

何かに一生懸命に取り組んでいる人たちを間近で見ること、こんなに清々しい気持ちになるとは思わなかった。よりによって大の苦手の数学がそれに気づかせてくれるとは。

私も頑張りたい。

体中を、じれったいほどの力が満たすのを、とわは感じた。

(一部内容を省略し、表記を改めました)

【まはら三桃『無限の中心で』】

注1 荒唐無稽……とりとめなく根拠がないこと。でたらめ。

注2 神さま……考え続けていた難問が突然わかるようになることを数

学者は「神さまから手帳を見せてもらった」と表現した。

注3 プリーズ……ここでは、「くください」の意で用いられている。

注4 ショパン……ポーランドの作曲家。ピアニスト(一八一〇～一八四九)。

注5 双葉山……日本の相撲力士で第三五代横綱(一九一二～一九六八)。

注6 ピカソ……スペインの画家(一八八一～一九七三)。

注7 ナジャカンの話……とわが創作している物語。

注8 グリム……「グリム童話」を執筆したドイツの文獻・言語学者の兄

弟(一七八五～一八六三、一七八六～一八五九)。

問一 —— 線①「聞き方によれば、奇妙で荒唐無稽な関口教授の話」

とありますが、とわがそのように感じた理由を説明した次の文の空
らん当てはまる言葉を、本文中から十字以内でぬき出しなさい。

* 関口教授が語った話は 内容だったから。

問二 —— 線②「親友との思い出話」とありますが、その内容として

最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 数式を介してコミュニケーションをとると、それまで感じられな

かった充実感が持てるようになった。

イ 新鮮な発想と共通の感性を持つ親友と共同で研究するときに、互

いに共通する言語を必要としなかった。

ウ 相手の人生を理解できたことで、同じ数式を美しいと感じるよう

になり二人の絆は強まった。

エ 優秀な学生だった二人は、互いをライバルとして意識することで

さらに高め合うことができた。

問三 —— 線③「とわは心もとない気持ちになった」とありますが、

その理由を三十五字以内で説明しなさい。

問四 —— 線④「先生にとつての神さまの手帳」とありますが、それ

はどのようなことをたとえていますか。「こと。」に続くよう、本文

中のこれより前の部分から三十字以内でぬきだし、最初と最後の三

字を答えなさい。

問五 —— 線⑤「在とまるで同じことを考えていたとわ」とあります

が、「在」と「とわ」が「考えていた」「同じこと」とは、どのよう

なことでしか。六十字以内で説明しなさい。

問六 —— 線⑥「数学の、圧倒おくだされるような包容力と普遍ふへん」の内容として、適当でないものを、次のア、エから選びなさい。

ア 数の理ことわりにかな適つていれば、解法は自分の選んだやり方を用いてよいこと。
イ 確かな裏付けによって導かれる正解が確固たる強さを持っていること。
ウ 唯一ゆいの正解を導き出すための正しい解法が複数存在しうること。

エ 正解はずっと待っているので時間をかければ必ずたどりつけること。

問七 —— 線⑦「引きしまっているのは、とわの体のほうだった」とありますが、このときの「とわ」についての説明として最も適当なものを、次のア、エから選びなさい。

ア 数学という学問の持つ奥深さおくに対して敬いうやまの気持ちを抱きいだ、強くひきつけられている。

イ 数学という簡単には理解できない学問に挑むいどため、自分の苦手意識をなくそうと決意している。

ウ 数学の奥深さを知り、この先どんな難問が現れるのかと緊張きんして身構みかまえている。

エ 数学という学問の巨大さを目の当たりまにして、体が硬直こうし、自由がきかなくなっている。

問八 本文についての説明として適当なものを、次のア、オから二つ選びなさい。

ア 関口教授の若い時の思い出話に刺激しされて、部員たちが数学への情熱を取り戻もどしていく様子が生き生きと描えがかれている。

イ 不思議な体験や文学的な表現を交えて語ることで、数学を身近に感じその本質が理解しやすくなる工夫がされている。

ウ 部員たちの活動の様子がとわの視点から比喩ゆを用いて語られることで、それぞれの個性が分かりやすく印象付けられている。

エ とわが得意とする文学と苦手とする数学を対照的に描き、それらの同質性に気づく過程が丁寧ていねいに述べられている。

オ セミナーをきっかけとして部員たちの意識が高まり、その姿にとわが影響えいきょうを受け、前向きになっていく様子が描かれている。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

遠足や運動会が近づくとき、気になり始める天気予報のニュース。

A 行事でなくても、学校に長傘かさを持つていくかどうかを決めるために、予報を確認することを毎朝の日課としている人も多いのではないのでしょうか。

明治一七年（一八八四年）六月一日に発表された日本初の天気予報は中率がきわめて低かったと記録されています。今日では、ラジオゾンデ・アメダス・ひまわりといった気象観測a キキもそろったうえ、コンピュータによる数値予報の技術も活用されるようになったことで、天気予報の B も着実に上がっています。

国家の仕事として初めて「①天気図」が作成されたのは一九世紀のヨーロッパです。一八五四年十一月、フランス艦隊が嵐あらしに遭あって全滅めつしました。当時の陸軍大臣から、艦隊が全滅した要因である嵐の調査依頼いらいを受けたパリの天文台長ルヴェリエは、②ヨーロッパじゅうの天文学者に手紙を出して調査した結果、嵐には前触れぶがあり、天気は「動いてくること」を発見しました。そして、一八五六年に「天気図」の作成に至ったのです。

天気は、その仕組みが解明されていなかった古代においては、河川かせんの氾濫はんらんなどを予測することが困難でした。そこで、星の位置によって季節を知ることで天体観測が**フカケツ**となりました。また、人類が農耕を始めるようになると、安定した農業生産のために季節の変化を正確に知ることが必要となり、C は、そのためにも利用されました。

このように天候の変化は、私たちの暮らしと密接cに関わってきました。確かに天候の急激な変化は、人間に**キケン**が及ぶ場合もあります。そ

の一方で、雨が降ったり、風が吹いたりすることが、人間の生存に重要な役割を果たしているともいえるでしょう。だからこそ人類は、まだまだ謎なぞの多い、星の運行や天気の仕事組を解き明かそうとするのでしょう。

問一 A に当てはまる言葉を、次のア～エから選びなさい。

ア たとえば イ たとえ ウ ところで エ つまり

問二 線 a～c のカタカナを漢字に直しなさい。

問三 B に当てはまる言葉を、本文中から四字以内でぬき出しなさい。

問四 線①「天気図」とありますが、ここでの「天気図」とは何を表したものと考えられますか。最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 雨量や風速 イ 太陽の位置
ウ 嵐による被害 エ 気象の変化

問五 線②「ヨーロッパじゅうの天文学者に手紙を出して調査」とありますが、具体的な調査内容として最も適当であると考えられるものを、次のア～エから選びなさい。

ア 艦隊が全滅した当日のヨーロッパ各地の嵐の状況を調査した。
イ 今回の嵐の期間前後のヨーロッパ各地の気象状況を調査した。
ウ ヨーロッパ各地で毎年冬に起こる嵐の前日の状況を調査した。
エ フランスを除くヨーロッパ各地の嵐の動きや状況を調査した。

問六 C に当てはまる最も適当な言葉を、次のア～エから選びなさい。

ア 天文学者 イ 気象現象
ウ 天体観測 エ 天気予報

問七 (1)ある季節に特有の天候や気象現象を一つ挙あげて、(2)それがもたらす、人間が生存していくうえでの利点を述べなさい。

四 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑦の（ ）には色を表す漢字一字が入ります。それぞれ答えなさい。

- ・（①）雲の志―社会に出て高い地位につこうと望む心。
- ・朱しゅに交まじわれば（②）―くなる―付き合う人によって良くも悪くもなる。
- ・（③）紙にもどす―何も無い元の状態にもどすこと。
- ・大（④）―柱―家や団体の中心となって支える人。
- ・沈ちん黙もくは（⑤）―雄ゆう弁べんは（⑥）―黙だまっているほうが大事な時がある。
- ・お（⑦）の子さいさい―ものごとを簡単にかたづけれること。

問二 次の①～⑧の――線のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

- ① スイスはエイセイ中立国である。
- ② 人工エイセイの打ち上げを行う。
- ③ 病気がカイホウに向かう。
- ④ 夏休みにプールをカイホウする。
- ⑤ 国をオサめる。
- ⑥ 学業をオサめる。
- ⑦ 目をサます。
- ⑧ お湯をサます。